

- 19.あなたがたは、アッラーを忘れた者のようであってはならない。かれは、かれら自身の魂を忘れさせたのである。これらの者はアッラーの掟に背く者たちである。
- 20.火獄の住人と樂園の住人とは同じではない。楽目の住人こそ勝利者である。
- 21.もしもわれがこのクルアーンを山に下したならば、それはきっと遜って、アッラーを恐れて粉々に砕けるのを見るであろう。こんな譬えを、われは人間に示すのは、恐らくかれらが熟考するであろうと思うからである。
- 22.かれこそは、アッラーであられる。かれの外に神はないのである。かれは幽玄界と現象界を知っておられ、慈悲あまねく慈愛深き御方であられる。
- 23.かれこそは、アッラーであられる。かれの外に神はないのである。至高の王者、神聖にして平安の源であり、信仰を管理し、安全を守護なされ、偉力ならびなく全能で、限りなく尊い方であられる。アッラーに讃えあれ。（かれは）人が配するものの上に（高くおられる）。
- 24.かれこそは、アッラーであられる。造物の主、造化の主、形態を授ける（主であり）、最も美しい御名はかれの有である。天地の凡てのものは、かれを讃える。本当にかれは偉力ならびなく英明であられる。

## SURA 60.試問される女章〔アル・ムンタヒナ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.あなたがた信仰する者よ、われの敵であり、またあなたがたの敵である者を、友としてはならない。あなたがたに与えられた真理を拒否しているにも拘らず、密に好意を寄せるのか。かれらは、あなたがたの主、アッラーを信仰しているという理由で、使徒とあなたがたを追放したのである。あなたがたは、われの喜びを願いながら、われのために聖戦に出かけていながら、（一方で）かれらに好意を寄せるのか。われはあなたがたの隠すことも、現わすことも知っている。あなたがたの中このようなことをする者は、本当に正しい道から迷い去った者である。
- 2.かれらはもしあなたがたの上手に立てば、あなたがたの敵となり、かれらの手と舌を悪意をもってあなたがたに伸し、あなたがたが不信心になることを望んでいる。
- 3.復活の日においては、あなたがたの親族もまた子女も、あなたがたには役立たないであろう。かれはあなたがたを裁決なされる。アッラーはあなたがたの行うことを御存知であられる。
- 4.イブラーヒームやかれと共にいた者たちのことで、あなたがたのため本当に良い模範がある。かれらが自分の人びとに言った時を思い起せ。「本当にわたしたちは、あなたがたとあなたがたがアッラーを差し置いて崇拝するものとは、何の関りもない。あなたがたと絶縁する。わたしたちとあなたがたの間には、あなたがたがアッラーだけを信じるようになるまで、永遠の敵意と憎悪があるばかりである。」イブラーヒームは父親だけにこう言った。「わたしはあなたのために、御赦しを祈りましょう。だがわたしは、あなたのためになるどんな力もアッラーから頂けない

でしょう。」(かれは祈った)。「主よ、わたしはあなたに御縋り申し、あなたにだけ悔悟します。わたしたちの行き着く所はあなたの御許ばかりです。

5.主よ、わたしたちを不信心者の試練に陥し入れないで下さい。主よ、わたしたちを御救し下さい。本当にあなたは、偉力ならびなく英明であります。」

6.本当に、アッラーと最後の日に望・を託している者にとって、この(物語の)中には良い模範がある。だがもし背き去る者があっても、本当にアッラーは、自足なされる御方讚美されるべき御方であられる。

7.アッラーはあなたがたとあなたがたが(今) 敵意を持つ者たちとの間に、あるいは友情を起させることもあろう。本当にアッラーは全能であられ、またアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

8.アッラーは、宗教上のことでああなたがたに戦いを仕掛けたり、またあなたがたを家から追放しなかつた者たちに親切を尽し、公正に待遇することを禁じられない。本当にアッラーは公正な者を御好・になられる。

9.アッラーは只次のような者を、あなたがたに禁じられる。宗教上のことでああなたがたと戦いを交えた者、またあなたがたを家から追放した者、あなたがたを追放するにあたり力を選した者たちである。かれらに縁故を通じるのを(禁じられる)。誰でもかれらを親密な友とする者は不義を行う者である。

10.あなたがた信仰する者よ、婦人の信者が、あなたがたの許に逃げて来た時は、かの女らを試問しなさい。かの女らの信仰に就いては、アッラーがけもよく知っておられる。もしかの女らが信者であることがあなたがたに分ったならば、不信心者の許に帰してはならない。かの女は、かれら(不信心者)には合法(の妻)ではなく、またかれら(不信心者)も、かの女らにとっては合法(の夫)ではない。しかしかれら(不信心者)が(マハルとして)贈ったものは返してやれ。あなたがたが、かの女らにマハルを与えるならば、かの女を娶っても、あなたがたに罪はない。だが不信心な女との絆を、固持してはならない。あなたが(マハルとして)贈ったものの返還を(不信心者のかの女の夫から)求めてもよい。またかれら(不信者)が贈ったものについては、その返還の要求を(あなたがたに対して求めさせればよい)。これはアッラーの御裁である。かれはあなたがたの間を(公正に)裁決なされる。本当にアッラーは全知にして英明であられる。

11.あなたがたの妻が、もしあなたがたの許を去り、不信心者の許に走るならば、先方(不信心者の夫)に勝利を納めた暁には、妻に去られた者にその戦利品の中から、マハルとして贈ったものと同額を与えなさい。あなたがたが信奉する、アッラーを畏れなさい。

12.預言者よ、あなたの許へ女の信者がやって来て、あなたに対しよう忠誠を誓うならば、「アッラーの外は何ものも同位に崇めません。盗・をしまん。姦通しません。子女を殺しません。また手や足の間で、捏造した嘘は申しません。また正しいことには、あなたに背きません。」(と

誓うならば)かの女たちの誓約を受け入れ、かの女たちのために罪を赦されるようアッラーに祈れ。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

13.あなたがた信仰する者よ、アッラーの御怒りを被った者に、友情を持つてはならない。かれらは、不信心者が墓場の(埋葬ず・の)仲間に就いて絶望しているのと同じように、来世に就いて絶望しているのである。

## SURA 61.戦列章 [アッ・サッフ]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.天にあり地にある凡ての有は、アッラーを讃える。本当にかれは偉力ならびなく英明であられる。
- 2.信仰する者よ、あなたがたはどうして(自ら)行わないことを口にするのか。
- 3.あなたがたが行わないことを口にするのは、アッラーが最も憎まれるところである。
- 4.本当にアッラーの御好・になられる者は、堅田な建造物のように、戦列を組んでかれの道のために戦う者たちである。
- 5.ムーサーがかれの人びとに言った時を思い起せ。「人びとよ、どうしてあなたがたはわたしを苦しめるのか。わたしが、あなたがたに(遣わされた)アッラーの使徒であることを、知っているではないか。」それでかれらが常規を踏・はずした時、アッラーはかれらの心を曲げられた。本当にアッラーは、(アッラーの)掟に背く者を御導きになられない。
- 6.マルヤムの子イーサーが、こう言った時を思い起せ。「イスラエルの子孫たちよ、本当にわたしは、あなたがたに(遣わされた)アッラーの使徒で、わたしより以前に、(下されている)律法を確証し、またわたしの後に来る使徒の吉報を与える。その名前は、アハマドである。」だがかれが明証をもって現れた時、かれらは、「これは明らかに魔術である。」と言った。
- 7.イスラームに招かれていながら、アッラーに就いて虚偽を捏造する者以上に悪を行う者があろうか。アッラーは不義を行う民を御導きになられない。
- 8.かれらはアッラーの御光を、口先で消そうと望んでいる。だがアッラーは例え不信心者たちが忌・嫌おうとも御自分の光(イスラーム)を現わした。
- 9.かれこそは、導きと真実の宗教を持たせて、御自分の使徒を遣わされた方で、例え多神教徒たちが忌・嫌おうとも、それ(イスラーム)を凡ての宗教の上に高く掲げさせられる。
- 10.あなたがた信仰する者よ、われは痛苦の懲罰から救われる一つの取引を、あなたがたに示そう。
- 11.それはあなたがたがアッラーとその使徒を信じ、あなたがたの財産と生命をもってアッラーの道に奮闘努力することである。もし分るならば、それはあなたがたのために最も善い。